

「京都府内における降水の地域特性-近年の事例から」

*滋野哲秀 (龍谷大学里山学研究センター)

Shigeno Tetsuhide (Ryukoku University)

1. はじめに

京都府内の降水の状況を気象レーダー等により分析すると、地形の影響により様々な降水が生じていることがわかる。

京都府南部の場合には、淀川チャネル型降水（三石 2008）と呼ばれる淀川沿いに発生し、大雨をもたらす線状降水帯が有名である。また、中部の場合には、由良川の河川勾配が福知山市付近から由良川河口まで緩いため、流域に降水が長時間続くと福知山市付近の流れが悪くなり市街地に水があふれ、しばしば災害を引き起こしてきた。

冬季は、降雪の状況が風向によって大きく影響を受けることがわかっている。西風の場合は、北部の沿岸部に降雪が集中する。北風になると、京都市を含めた南部にまで雪雲が流入する。こうした北風の場合、京都市と滋賀県の間にある比良山系～比叡山が降雪範囲と降雪量に影響を及ぼすことがある。比叡山の東側にある大津市は比叡山の東側を吹いてくる風、比叡山の西側に位置する京都市左京区付近は比叡山の影響で吹き溜まりのような降雪がみられる。

こうした中で、京都府における大雪といえば、38豪雪と呼ばれた大雪が京都府北部の丹後が中心であり、中丹地域と呼ばれる綾部市、福知山市では、大きな降雪とはならなかった。ところが、2021年12月～2022年3月の降雪状況は、舞鶴市の積雪が80cmを超える、アメダスの積雪データがない綾部市のいくつかの地域でも80cmを超える積雪となった。長年、綾部市に住む古老に聞いても記憶がない量の降雪であった。

2. 京都府の主に夏季にみられる事例から

淀川チャネル型降水は、大雨をもたらす場合だけではなく、気圧の谷が通過した後も、雨が残り回復が遅れる場合にもその特徴がみられる。また、この降水帯は、下層が南西風場であり、淡路島の北側と紀伊水道を北上する風の合流、琵琶湖からの冷たい空気が北東から流入する場合に顕著になる。また、アメダスの風の場を観察すると伊勢湾から入った風が、滋賀県琵琶湖を経由して京都に流れ込む北東流場となっているといった特徴もよく見られる。本稿では、2012年7月の短時

間豪雨のほかに京都府南部での天気の回復が遅れる場合の特徴を含めて考察した。

3. 京都府の冬季における事例から

京都府の降雪は、北部と南部で大きく異なる。西高東低の気圧配置でも西風成分が大きければ、北部沿岸部に積雪し、さらに同じ北部でも若狭湾を取り囲む山の関係で積雪量が微妙に変化する。

風向が北寄りになると雪雲が若狭湾から標高の低い丹波高原の上を超えて京都市内まで、寒気が強い場合はさらに南の宇治市など山城地域まで流入する。2023年1月24日の「10年に1度」とされる寒波の大雪や、2015年1月1日～3日にかけての京都市内の大雪は「『日本海寒帯気団収束帶』が京都市付近まで南下。若狭湾から発達した雪雲が京都市内に次々と流れこむ状況になっていた」（京都新聞 2020）という京都市内の雪の事例である。

こうした中で、2021年12月～3月にかけての雪は中丹地域の舞鶴市から綾部市にかけての地域で、まるで雪国にいるかのような豪雪となった。この冬は12月の雪が根雪となり、3月中旬まで農地に雪が残る（綾部市）というこの地域ではかつて見られなかつた冬となつた。以上、近年の特徴的な状況を報告する。

参考文献

- [1] 三石浩一, 2008 : 淀川チャネル型降水 . 天気, 55, 978-979
- [2] 京都地方気象台, 2012 : 平成 24 年 7 月 15 日の京都市, 龜岡市の大雨について, 気象速報
- [3] 井口敬雄, 2013 : 京都府立大学で観測された 2012 年 7 月 15 日の大雨, 京都大学防災研究所年報.2013、56 (B) :257-264
- [4] 京都新聞, 2020 : 「大雪の記録」正月からドカ雪、京都市の積雪 22 センチで交通大混乱 2015 年の大雪
- [5] 京都地方気象台, 2023 : 令和 5 年 1 月 24 日から 25 日にかけての強い冬型の気圧配置による大雪と強風について, 気象速報
- [6] 每日新聞, 2021 : 府北部で記録的大雪 舞鶴 54 センチ 12 月最大値更新 京都市内もうっすら